

短歌募集

● 課題 隨意

● 切 十月十日

● 賞品 天 西山慈次編 日本家庭辭書冊一定價壹圓參拾錢

● 地 下田歌子著 女子の修養冊一定價七拾錢

● 人 東基吉著 育兒日誌特製冊一定價五十錢

● 選評 本會

● 投稿 用紙はがきニテ本會宛



○ 短歌

菅原喜代子

朝な夕な土かひおきし撫子の咲くをも待たて去まし君はも
行けどくみどりにつやく夏山や空には浮ぶ雲もなくして

○ 山脇満壽

つくんと思ひ入りなば三ヶ月の影もかなしき虫の聲かな
若き肩に夕べ露うく花野路や冷たき風よ吹くは二人に

○ 三井白梅

水樓やはちすくれなぬ様に充ちて朝風露に勾ひこめたる
墨すりて人待つ宵を夕顔の花にかくる夕づゝのかげ

○ 玉尾昌

下京の女艶なる絹團扇うすき情とかれおどろきぬ
夏磯や狂ふ小波にもつれあふ藻の花二つ見えつ隠れつ

○ 吉野絹子

朝露にぬれて立たせる姫み子の袂うつくし桔梗紫
神ありてさゝやく如き響き哉朝露ちらふ白はちらす花

○ 清水光風

送り來し優しき文字にうさひぬる撫子の花永久にあせざれ

○ 館秋蘭

紅牡丹蝶を添えたる扇かざし車して行く廬髮哉

○ 山脇山子

夏草のしげみ眞白き花見出で打つ手音なきうなぬ子の群

